



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

## ワードマップ 批判的思考 21世紀を生きぬくリテラシーの基盤

楠見 孝

本書は、クリティカル・シンキングとリテラシーに関する53個の基本ワードの解説を通して、21世紀を生きる市民のためのマップを描いたものです。

その目的は、第一に21世紀の市民にとって、情報を読み解くリテラシーの重要性を伝えること。それを支える批判的思考の仕組み・理論について、哲学、心理学、神経科学、教育学などと実践に関わる関連分野の諸研究に基づいて解説しています。第二に、批判的思考力を育成する教育について紹介すること。小学校から大学までの実

践と理論について、学習指導要領の改訂や21世紀型学力など最新の教育界の動向を踏まえて検討しています。第三に、社会における批判的思考の応用について説明すること。放射線リスク、流言、代替医療などの具体的な社会的問題を取り上げて、それらの問題を解決するためのリテラシーと批判的思考、さらに集合知や支援システムについて論じています。

本書が読者の皆さんにとって、批判的思考に基づく教育・研究・実践を行う契機になることを願っています。



編著 楠見孝・道田泰司  
発行 新曜社  
四六判 / 320頁  
定価 本体2,600円+税  
発行年月 2015年1月

くすみ たかし  
京大大学院教育学研究科教授。専門は認知心理学。著書はほかに『批判的思考力を育む』（共編、有斐閣）、『実践知：エキスパートの知性』（共編、有斐閣）、『科学リテラシーを育むサイエンス・コミュニケーション』（共編、北大路書房）、『なつかしさの心理学：思い出と感情』（編著、誠信書房）、『思考と言語』（編著、北大路書房）など。

## 商品開発のための心理学

熊田孝恒

本書は、現場の問題に心理学を役立てようという試みを、物語風にまとめたものです。「このご時世だから、役に立つ心理学を」というような上から目線の啓蒙書ではありません。成功事例を紹介した教科書でもありません。ものづくりやサービスの現場での問題と、基礎心理学の考え方や方法を、どうやって融合させるのかを試行錯誤、悪戦苦闘した軌跡が、ライブ感を伴って語られています。新しいものを手探りで見つける、このわくわく感を、きっと感じて頂けると思います。面白いから

自分もやってみたいと思うか、こんな大変なことはごめんだと思うかは、読者の皆さん次第。ただ、「基礎心理学も結構やるじゃん」、と思ってもらえれば本望です。

特に、若手の研究者の皆さん、心理学との接点を探している企業関係者の皆さん、また、心理学の研究がどのように行われ、成果がどのように役立てられているかに興味のある一般の皆さん、ぜひ、ご一読ください。日頃の生活の中にも研究対象があふれていることに気がつくことでしょう。それこそが新しい研究の出発点です。



編著 熊田孝恒  
発行 勁草書房  
四六判 / 216頁  
定価 本体2,500円+税  
発行年月 2015年1月

くまだ たかつね  
京大大学院情報学研究所教授。理化学研究所、脳科学総合研究センター、連携ユニットリーダーを兼務。専門は認知心理学、認知神経心理学、脳機能計測学、応用認知心理学。著書はほかに『マジックにだまされるのはなぜか：「注意」の認知心理学』（化学同人）、『注意と安全』（分担執筆、北大路書房）、『認知心理学ハンドブック』（分担執筆、有斐閣）など。



著 大淵憲一  
 発行 サイエンス社  
 四六判 / 336頁  
 定価 本体2,000円+税  
 発行年月 2015年1月

おおぶち けんいち  
 東北大学大学院文学研究科教授。専門は社会心理学。著書はほかに『失敗しない謝り方』(CCCメディアハウス)、『青年期発達百科事典』(共編訳、丸善出版)、『紛争と平和構築の社会心理学：集団間の葛藤とその解決』(監訳、北大路書房)、『犯罪心理学』(共著、雙葉書房有限公司)、『人を傷つける心：攻撃性の社会心理学』(サイエンス社)など。

## 紛争と葛藤の心理学

人はなぜ争い、どう和解決するのか

大淵憲一

社会的葛藤を扱う書物では、葛藤の原因や解決方略などを論じ、最終的に建設的葛藤をどう達成するかという筋立てが多い。しかし、結論部分が常識的なものであるために、このストーリーはありきたりになりがちであった。実際、話し合いで葛藤解決を図るのが良いことは子どもでも知っているし、研究知見もこれを支持する。むしろ問題は、良いと分かっているが当事者たちがそれを実践できず、葛藤解決が困難になることが多いという事実にある。そこで本書では、誰でも知っている葛藤解決策を

人々はなぜ実践できないのかという問いを立て、これを議論の出発点とした。葛藤解決を妨げる心理的障壁には、客観的認識と合理的意思決定を妨げる認知バイアス、葛藤時の負の感情と自尊心動機などが含まれる。本書ではこれらを詳述し、同時にこの障壁を乗り越えるために人々が動員しうる心的資源とこれらを左右する人間関係とパーソナリティを論じた。多数の実証研究を参照し、理論的観点重視することによって、葛藤分析を通して人間の集団心理と人間関係の本質に迫ることを目指した。



編著 川崎恵里子  
 発行 誠信書房  
 A5判 / 206頁  
 定価 本体2,600円+税  
 発行年月 2014年9月

かわさき えりこ  
 川村学園女子大学教授。専門は認知心理学。著書はほかに『知識の構造と文章理解』(風間書房)、『ことばの実験室：心理言語学へのアプローチ』(編著、ブレーン出版)、『認知心理学の新展開：言語と記憶』(編著、ナカニシヤ出版)、『言語とところ：心理言語学の世界を探検する』(分担執筆、新曜社)など。

## 文章理解の認知心理学

ことば・からだ・脳

川崎恵里子

言語の機能はきわめて高度で複雑であるが、言語過程は自動的に無意識のうちに進行するため、そのメカニズムを分析するには統制された実験が必要とされる。本書は心理言語学の領域の中で、文章理解を中心としたテーマに絞り、認知心理学的アプローチによってどのように解明するかを紹介したものである。本書では、反応時間や眼球運動を指標とする実験室的アプローチ、脳の構造と機能に関する情報を用いる認知神経科学的アプローチ、およびコネクショニストモデルなどの計算モデルによ

るアプローチの3つを採用している。対象は、認知心理学における文章理解のモデル、推論と照応、読書中の眼球運動、読書量と読書力の関連、文理解と身体との相互関係、言語処理と知覚・運動処理の関連、動詞や名詞の活用に関する二重メカニズムモデルの研究。さらに、物語を用いた発達支援の研究にいたるまで応用研究への発展を示す。文章理解に関するさまざまな問題に理論的吟味を加え、実験的検証を重ねて解明するプロセスのおもしろさを、読者には味わっていただきたい。